

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300462
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会
事業所名	グループホーム いずんじま
所在地	福岡県八女市川犬1025番地
自己評価作成日	平成30年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成30年2月28日	評価結果確定日	平成30年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お茶畑に囲まれた静かな立地条件を生かし、落ち着いた空間の中でゆっくりとした時間を送れるよう配慮しながらサービスを提供している。近くにある市立保育所・小学校等の子ども達との交流も年に数回行ない、子どもたちとも触れあえる環境作りを構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行政や市内のグループホームとの連携も図りながら、認知症サポーター養成講座の開催やネットワークづくりに向け意欲的に取り組んでいるところであり、隣接する同法人デイサービスにオープンスペースを設け、地域交流活動を模索する等、法人全体で地域拠点としての役割を担うべく取り組んでいる。また、近隣小学校にて人権のまちづくりをテーマとする「ふれあい広場」が開催される際には、利用者の方々と共に参加・出店を行い、地域との交流を重ねている。KYT(危険予知訓練)を導入する等、サービスの質の確保に向けた取り組みも重ねており、職員個々の気づき力の向上とともに、自立支援やリスク回避への意識を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部評価時にアドバイスをもらい、現状に即した新たな事業所理念を作成している	定例会の中で、法人理念及び事業所運営理念に関する研修を実施している。また、新規採用時のオリエンテーションの際には、資料を基に共有を図っている。これまでに理念の再構築に取り組んだ経緯もあり、定期的な見直しも検討されており、現状に即した実践に結び付けていく意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では民生委員・主任児童委員に参加をお願いし、地域で開かれている祭にも参加し活動の報告を行ない、地域保育所・小学校児童も訪れている	人権のまちづくりをテーマとする「ふれあい広場」が近隣小学校で開催され、利用者の方々と共に参加し、出店も行っている。市内のグループホームとの連携も図りながら、認知症サポーター養成講座の開催やネットワークづくりに向けて意欲的に取り組んでいるところであり、声を掛け合える関係づくりを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	24時間365日スタッフが居る状況と地元小学校の通学路という地域環境を考え、子ども110番(安全ハウス)の登録を継続している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の予定や報告、事業所の取組みなどを報告・説明し、サービス向上につなげる事が出来るよう配慮している	運営推進会議は、家族、民生委員、主任児童委員、市職員、地域包括支援センター職員等の出席を得て開催されている。活動状況や研修実施、KYT(危険予知訓練)等について報告し、地域情報を共有しながら意見交換を行っている。地域の方が気軽に休憩できるよう事業所前に「バス停」のような場所を作っては等のアイデアも出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政と地域密着型サービス事業所で行っているサービス連携会議や運営推進会議等で交流を図っている	運営推進会議には、市担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ており、事業所の実状を共有し開かれた事業運営に努めている。また、行政が事務局を務めるサービス連携会議連絡協議会等の活動を通じて、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないよう取り組んでいる。玄関の施錠も行わない	日中は玄関の施錠は行われていない。個別の見守りの距離感を意識しながら、心身の抑制とならない関わりに努めている。また、KYT(危険予知訓練)を導入し、職員個々の気づき力の向上や共有認識を図りながら、自立支援とリスク回避への意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を交え防止に努めている施設内外の研修を通じ今後も努力する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人や家族の申し出がある場合に説明等行えるようにしている	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、これまでに活用実績もあり、資料を準備し、必要時には情報提供が行えるよう取り組んでいる。	職員が定期的に権利擁護制度について学ぶ機会を確保するとともに、家族や地域に向けた情報発信を行っていくことも期待されます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない理解を求めよう交付している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時苦情処理の説明を行なっているが現時点で実績がないため反映は行われていない	訪問記録から、家族等の来訪機会が多いことがうかがえる。また、運営推進会議の開催を任意に広く案内している。	運営推進会議への家族の参加機会が少なく、より積極的な意見や要望の収集に向けた働きかけが期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で議題や今後行ないたい研修など意見を聞き取り反映している	職員全員参加を基本とする定例会議を開催し、活発な意見交換がなされている。備品購入等の業務改善や、柳川川下り等の外出行事に実際に反映されている。職員の意見や提案には、まずはやってみるという姿勢で前向きに検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別で可否の結果を出す事はない。一人ひとりの能力や人柄で判断している	現状として職員体制は安定している。各担当者がテーマを決めて開催される月例勉強会や、外部研修参加に向けた費用面も含むサポート体制等、個々のスキルアップや主体的な意識の成長を支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所内研修に取り入れている	法人及び事業所理念やコンプライアンス等の研修実施を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるよう配慮している。定例会議ではそれぞれの職員が自ら研究発表を行なっている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女・筑後地区介護保険事業者連絡協議会・八女市地域密着型サービス連携会議に所属し開催される勉強会や研修会等に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	精神・身体状況を勘案した情報を家族に記入してもらい可能な限り把握に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に困っていた事や不安に感じた事等聞き取りを行ない、ホームでの生活に役立てる事が出来るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に家族はギリギリまで我慢をしてくれようかと思われ、追いつかぬ状況で入居の相談に来ることが多い。それを踏まえて相談に乗るよう配慮している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築けるよう努力している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを行なう上で家族の聞き取りが役に立つ事が多いので綿密な連絡を取れるように配慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努力している	かかりつけ医の継続や行きつけの美容院の利用等、在宅時の馴染みの関係継続に向けた支援が行われている。家族の来訪する機会も多く、居住地の民生委員の方の面会もある。生け花等、得意な事や趣味活動の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が損なわれないよう配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報の提供を行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り配慮している	インテーク時及び家族の協力も得ながら情報収集を行っている。業務優先とならないよう、本人本位の暮らしの継続に向けて、介護計画の中にも位置付けながら支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や家族からの聞き取りを重視している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者・夜勤者の申し送りを綿密に行ない状況の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に沿えるよう心がけている	共同生活の中での人間関係や金銭管理に関する課題、習い事の継続等、社会生活の継続に向けたニーズも盛り込みながら、介護計画を作成している。日々の記録は「行動」「言動」「様子」等、細やかな視点が確保され、職員間で共有を図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの為の記録を数種類準備し場面に応じて記入できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医はそのまま継続して頂いている。事業所として主治医と良い関係が築けるよう配慮している。	これまでのかかりつけ医との関係性に配慮し、出来る限り継続できるよう支援している。また、協力医による訪問診療も可能である。必要時に応じて受診時に家族と同行し、情報共有を密にしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在事業所内に看護師はいないが状況に応じ、隣の事業所より来てもらいお互いに情報の伝達がスムーズに行えるよう心がけている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療室等と連携を行ないスムーズな入院治療が行えるよう努力している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行なっている	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向を確認している。今後想定される看取りの支援について、医療機関との更なる連携体制の構築や職員の意識向上に取り組み、チームケアの質の向上に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・通報・消火訓練を行なっている。定期的に夜間を想定しての訓練も行ない、地震等の災害に応じた訓練にも取り組んでいる。	地震を想定した訓練実施や、運営推進会議の中で自然災害への対応について話し合いを行っている。地域の公民館より高台に位置するため、水害時には隣接する同法人通所事業所に地域住民が避難した実績もある。設備改修による炊き出しセットの準備や地域消防団との連携も図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部にて言葉使いや接遇に関する研修もしている	個人情報保護や言葉使い、接遇、コンプライアンス等の研修実施を通じて、職員の意識の向上に取り組んでいる。本人・家族の気持ちを考えながらイベント時にも過度な仮装とならないよう留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるように心がけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により買い物に行き、好みの洋服を購入し身だしなみに気を付けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	機能的に可能な方はそれぞれの役割の中で段階的に手伝う機会を設けている。	管理栄養士による献立が作成され、昼食は法人厨房との連携を図っている。法人代表者が育てる野菜も用いながら、地域の精肉店や豆腐店より食材が届けられる。庭でおやつを楽しむ等の支援も行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の計算の下、食事を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の消毒・歯磨き等毎日行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	配慮し、支援を行なっている。	排泄状況や水分摂取量の把握に努め、日中はトイレでの排泄を基本として、個別のパターンや習慣に応じた声掛けや誘導に努めている。便秘予防として、食物繊維や乳製品の摂取に配慮し、医療との密な連携も図りながら支援している。各居室にトイレが設置され、感染対策としても有効となっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもと予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能でゆっくり入浴できるよう配慮している。	毎日入浴準備を行い、週に2、3回は入浴出来る様、希望や状況、体調等に応じて柔軟な対応に努めている。拒否される方には、タイミング等を工夫しながら、無理強いとならないよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠い時は午睡など状況を見ながら支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から全ての薬の説明をもらい薬科辞典も常備し理解を深めている。また、地域の薬剤師との連携を行ない薬の使用や管理方法なども取り入れている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやカルタ、その他レクリエーションを行ない、それぞれが楽しめる物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など積極的に行っている。また外出レクを通じて四季を感じてもらったり普段は行かないような場所へも行けるよう配慮している。	周囲には茶畑の中を通る散歩道もあり、広い敷地内の外気浴も含めて、日常的な外出機会の確保に努めている。また、日用品の買い物等、個別の外出支援も実施されている。季節に応じた外出行事や柳川の川下り、地域行事への参加等を企画・実行されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクや買い物の際にお小遣いから買い物等楽しんでいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての部屋に電話を引ける。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りは畑や茶畑に囲まれた静かな地域で外部からの騒音等はない。	玄関ホールには数十冊の思い出アルバムが置かれ、写真にて日常の様子を共有できるようになっている。また、利用者の手作り作品が各所に飾られている。愛猫の存在は暮らしの潤いとなり、利用者の方々も気にかけている様子。和室の小上がりも設けられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が近くの席に座れるよう配慮したり畳の部屋も有る。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具等持参してもらったりプライベートスペースとして住みやすくなるよう配慮している。	各居室には、トイレや洗面、収納が設けられており、馴染みの品々が持ち込まれ、生活感あるプライバシー空間となっている。配置や動線の確保にも配慮され、手作り作品の掲示等、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には本人の部屋と認識できるように配慮し、部屋を間違えないように工夫している。		